

我が会は昨年度（平成 28 年度）任意団体として実践してきた活動を継続的に推進して責任ある行動を行うために、NPO 法人化を行いました。

昨年度、高槻の誇りであった、名誉市民磯村翁が誘致に尽力された前京大化学研究所、京大温室、京大摂津農場が次々と廃止されました。昭和の初め高槻は、田園都市を目標に、「田園文教の町」「風光明媚で歴史の町」を目指していました。都市化への変化は時代の流れとしては仕方ない事ですが、物語だけでも残していきたいものです。名誉市民の高碓翁はおっしゃいました。

「**進歩の名のもとに、古き姿は失われていく。だが、人力で救えるものは、何とかして残していきたい。古きものは、古きがゆえに尊い**」

今年も高槻には高碓翁の物語である 荘川桜が立派に咲きます。（馬淵）



高槻市マスコットキャラクター  
『はにたん』

### ■郷土の誇り『大宅壮一』を学ぶ

当会では平成 29 年の勉強会テーマとして、市内富田町生まれで、戦後日本の本質を突く「一億総白痴化」、「駅弁大学」などの造語を生み、「マスコミの王様」と称えられた評論家大宅壮一氏を取り上げています。生涯において大宅氏が唯一残した日記である、「茨木中學生徒日誌」を基に刊行されている「大宅壮一日記」を読み、多感な少年時代の大宅氏の姿を学んでいます。

大宅氏の生家は、醤油醸造販売業で、茨木中学に入学するころには祖父の代に栄えた家業も衰退し、家運挽回のホープと期待され、一家の大黒柱として働きながら学校に通っていました。また、江戸時代の繁栄に較べ、廃れゆく富田の町を嘆くなかで、三輪神社、本照寺、普門寺等が日記に書かれています。大宅氏は醤油を配達する荷車を曳きながら英語の単語を暗記したり、少年雑誌の懸賞論文の筋書きを頭の中で書くといった努力家です。今後、茨木中学退学から三高時代、東大中退を経ての戦前、戦後の活躍ぶりを勉強して行こうと思っています。（藤川）

### 【4月の活動予定】

4月10日勉強会

「大宅壮一中学時代②」現代劇場 201号室

4月24日講演

『蟹母船「白洋丸」における缶詰実態』

高槻市立総合市民交流センター第二会議室

### ■大宅壮一のふる里を訪ねて

3月11日、國乃長【蔵開き】の開催に合わせて、大宅壮一のふる里を散策してきました。阪急富田駅を出発して、清蓮寺→本照寺→三輪神社→普門寺→國乃長のコースです。古い土地柄を偲ばせる風格ある社寺でした。散策の終着地点は國乃長の「壽酒造株式会社」で、蔵開きの新酒を堪能しました。



旧富田小学校の門柱  
大宅壮一もこの門から  
巣立っていきました。

### ■講演会開催

現在巷では、“缶詰めバー”なるものがトレンドとして流行ってます。魚類の缶詰めは、以前は過酷な遠洋漁業の船上で製品化されてきました。今回、当時その仕事をなさっておられた方の苦労話をお聞きすることができます。ご参加お待ちしております。



開催日時：平成 29 年 4 月 24 日（月）16：00～17：30  
開催場所：高槻市立総合市民交流センター第二会議室  
題目：『蟹母船「白洋丸」における缶詰実態』  
講演者：中村一雄（前東洋製罐(株)生産指導者）